

# イチゴの病害虫の発生状況（3月上旬）

## 1 うどんこ病

発生ほ場割合は、平年並でした（図1、図2）。発生程度の高いほ場では、果実、果梗への発生も確認されています。まん延すると防除が困難になるので、発生初期から防除を実施してください。

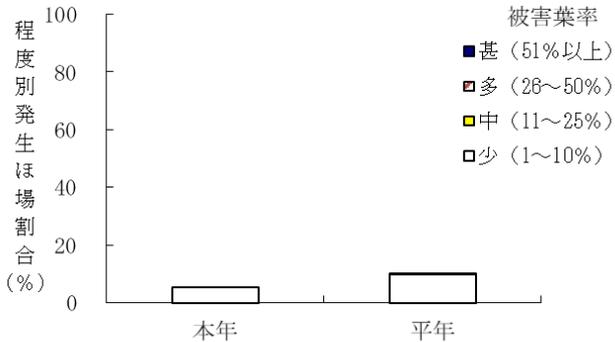


図1 うどんこ病（葉）の発生状況

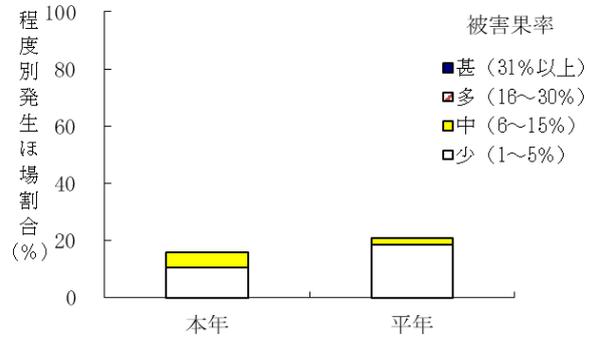


図2 うどんこ病（果実）の発生状況

## 2 灰色かび病

発生ほ場割合は、平年並でした（図3）。本病害は、湿度が高いと発病しやすくなります。罹病した果実や茎葉、果梗は、ほ場外に持ち出して処分してください。

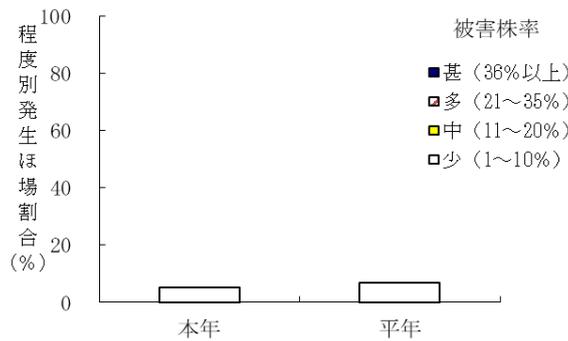


図3 灰色かび病の発生状況

## 3 アブラムシ類

発生ほ場割合は、平年並でした（図4）。寄生密度が高くなると、排泄物によりすす病が誘発され果実汚れが生じるため、低密度時から薬剤防除を実施してください。

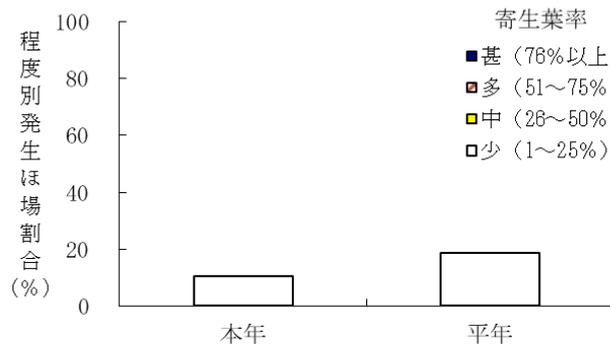


図4 アブラムシ類の発生状況

#### 4 ハダニ類

発生ほ場割合は、平年並でした（図5）。早期発見に努め、低密度時から防除を実施してください。抵抗性の発達が懸念されるので、薬剤の選択には注意してください。また、ハダニ類の防除にチリカブリダニやミヤコカブリダニを放飼している場合は、天敵資材に影響の小さい薬剤を選択してください。

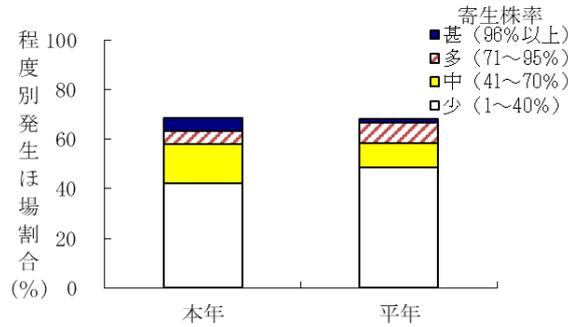


図5 ハダニ類の発生状況

#### 5 コナジラミ類

発生ほ場割合は、平年並でした（図6）。一部ほ場では、コナジラミ類等の排泄物によるすす病の発生も確認されています。低密度時から防除を実施してください。また、ラノーテープを使用している場合でも、寄生密度が高いほ場では防除を実施してください。

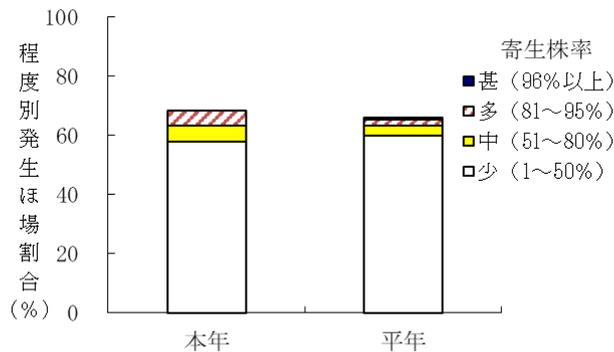


図6 コナジラミ類の発生状況

#### 6 アザミウマ類

発生ほ場割合は、平年並でした（図7）。開花中の花をよく観察し、寄生が確認される場合は、低密度時から防除を実施してください。

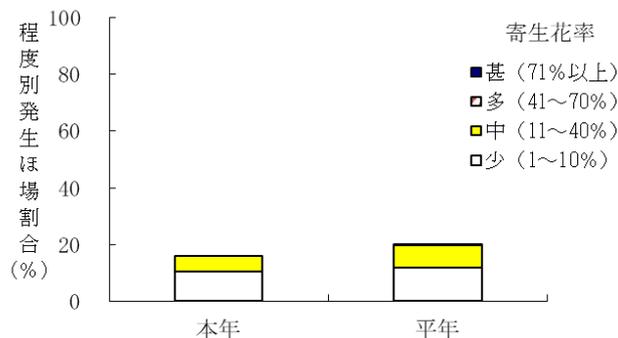


図7 アザミウマ類の発生状況

## 注意が必要な病害虫

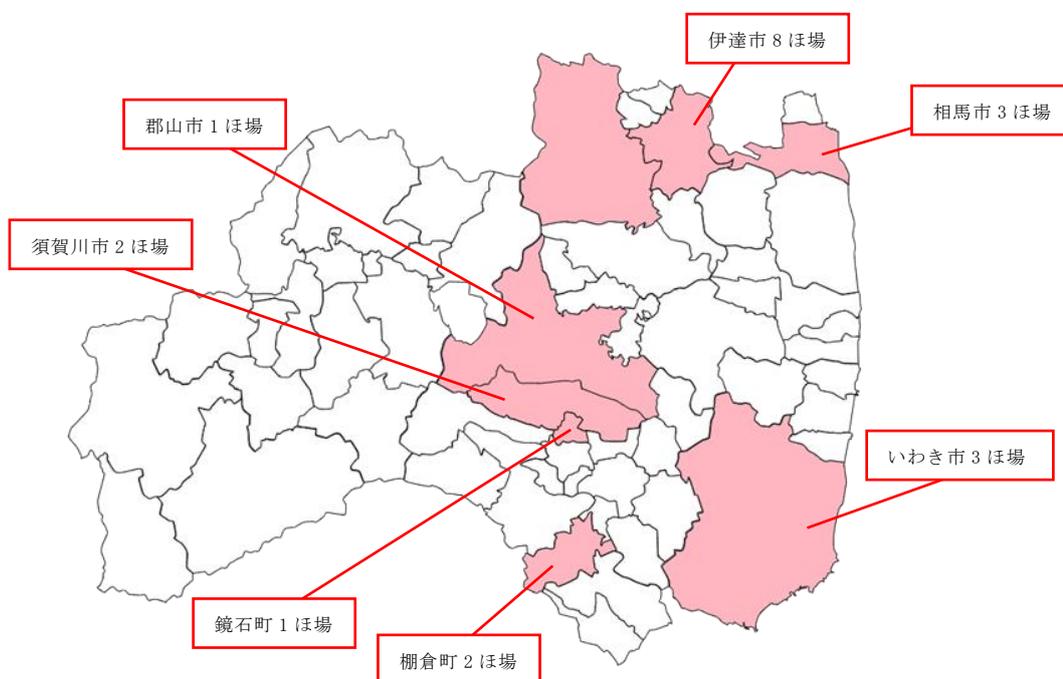
### ■すす病

すす病の発生ほ場割合が、平年に比べてやや高い状況となっています。主な被害は、コナジラミ類やアブラムシ類の排泄物が付着した葉や果実等に黒いかび（すす病）が発生し、商品価値の低下を招きます（写真1）。また、本病の原因となるコナジラミ類やアブラムシ類が多発生した場合には、吸汁加害による株の生育不良も生じることがあるため、低密度のうちから防除を徹底しましょう。



写真1 葉に発生したすす病

※イチゴの巡回調査では、下記の20ほ場を調査しています。



● 情報内容への質問や要望は、福島県病害虫防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709 Fax:024-958-1727 Mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp